

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		関西学院大学		設置者名	学校法人 関西学院			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成24年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
						実数	個別	
神学部		30人	中一種免(宗教)	昭和36年度	36人	0人	0人	0人
			高一種免(宗教)	昭和36年度			0人	
			高一種免(公民)	平成12年度			0人	
文学部	文化歴史学科	275人	中一種免(社会)	平成15年度	289人	58人	44人	12人
			高一種免(地理歴史)	平成15年度			43人	
			高一種免(公民)	平成15年度			23人	
	総合心理科学科	175人	高一種免(公民)	平成15年度	176人	9人	9人	2人
	文学言語学科	320人	中一種免(国語)	平成15年度	318人	67人	22人	16人
			中一種免(英語)	平成15年度			40人	
			中一種免(フランス語)	平成15年度			2人	
			中一種免(ドイツ語)	平成15年度			3人	
			高一種免(国語)	平成15年度			24人	
			高一種免(英語)	平成15年度			43人	
			高一種免(フランス語)	平成15年度			0人	
高一種免(ドイツ語)			平成15年度	3人				
社会学部	社会学科	650人	中一種免(社会)	昭和48年度	685人	25人	16人	4人
			高一種免(地理歴史)	昭和48年度			14人	
			高一種免(公民)	昭和48年度			12人	
法学部	法律学科	520人	中一種免(社会)	昭和29年度	508人	2人	1人	0人
			高一種免(地理歴史)	昭和29年度			2人	
			高一種免(公民)	昭和29年度			1人	
	政治学科	160人	中一種免(社会)	昭和29年度	184人	5人	0人	0人
			中一種免(英語)	昭和29年度			3人	
			高一種免(地理歴史)	昭和29年度			1人	
			高一種免(公民)	昭和29年度			3人	
			高一種免(英語)	昭和29年度			2人	
経済学部		680人	中一種免(社会)	昭和29年度	671人	22人	9人	3人
			中一種免(英語)	昭和29年度			8人	
			高一種免(地理歴史)	昭和29年度			8人	
			高一種免(公民)	昭和29年度			14人	
			高一種免(英語)	昭和29年度			8人	
商学部		650人	中一種免(社会)	昭和29年度	586人	12人	5人	4人
			中一種免(英語)	昭和29年度			4人	
			高一種免(地理歴史)	昭和29年度			4人	
			高一種免(公民)	昭和29年度			2人	
			高一種免(商業)	昭和29年度			2人	
			高一種免(英語)	昭和29年度			4人	
理工学部	数理科学科	75人	中一種免(数学)	平成21年度	82人	43人	41人	24人
			高一種免(数学)	平成21年度			43人	
	物理学科	75人	中一種免(数学)	平成21年度	70人	10人	7人	4人
			中一種免(理科)	平成21年度			5人	
			高一種免(数学)	平成21年度			4人	
			高一種免(理科)	平成21年度			6人	

	化学科	75人	中一種免(理科)	昭和37年度	78人	9人	9人	3人
			高一種免(理科)	昭和37年度			9人	
	生命科学科生命科学専攻	40人	中一種免(理科)	平成21年度	42人	2人	2人	1人
			高一種免(理科)	平成21年度			2人	
	生命科学科生命医化学専攻	40人	中一種免(理科)	平成21年度	39人	3人	2人	2人
			高一種免(理科)	平成21年度			3人	
	情報科学科	75人	中一種免(数学)	平成14年度	77人	5人	5人	3人
			高一種免(数学)	平成14年度			3人	
			高一種免(情報)	平成14年度			4人	
	人間システム工学科	80人	中一種免(数学)	平成21年度	66人	6人	6人	2人
高一種免(数学)			平成21年度	6人				
高一種免(情報)			平成21年度	4人				
総合政策学部	総合政策学科	240人	中一種免(社会)	平成11年度	265人	25人	2人	5人
			中一種免(英語)	平成11年度			22人	
			高一種免(公民)	平成11年度			2人	
			高一種免(英語)	平成11年度			22人	
	メディア情報学科	120人	高一種免(情報)	平成14年度	118人	2人	2人	1人
	都市政策学科	100人	中一種免(社会)	平成21年度	110人	2人	2人	0人
高一種免(公民)			平成21年度	2人				
国際政策学科	120人	中一種免(社会)	平成21年度	117人	2人	2人	0人	
		高一種免(公民)	平成21年度			0人		
人間福祉学部	社会福祉学科	130人	高一種免(福祉)	平成20年度	118人	1人	1人	0人
	社会起業学科	70人	高一種免(公民)	平成20年度	66人	2人	2人	1人
	人間科学科	100人	中一種免(保健体育)	平成20年度	111人	22人	22人	5人
高一種免(保健体育)	平成20年度	22人						
教育学部	教育学科	350人	幼一種免	平成25年度	—	—	—	—
			小一種免	平成25年度			—	
			中一種免(社会)	平成25年度			—	
			高一種免(地理歴史)	平成25年度			—	
			高一種免(公民)	平成25年度			—	
国際学部	国際学科	300人	中一種免(英語)	平成22年度	—	—	—	—
			高一種免(英語)	平成22年度			—	
入学定員合計		5,450人	合計		4,812人	334人	643人	92人

大学名		関西学院大学(大学院)			設置者名		学校法人 関西学院		
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況(平成24年度)				
研究科	専攻等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数	
						実数	個別		
神学研究科	神学専攻	10人	中専免(宗教)	昭和36年度	9人	0人	0人	0人	
			高専免(宗教)	昭和36年度			0人		
文学研究科	文化歴史学専攻	22人	中専免(社会)	平成19年度	14人	2人	2人	2人	
			高専免(地理歴史)	平成19年度			1人		
			高専免(公民)	平成19年度			1人		
	総合心理科学専攻	20人	中専免(社会)	平成19年度	18人	2人	2人	5人	
			高専免(公民)	平成19年度			2人		
			文学言語学専攻	22人			中専免(国語)		平成19年度
中専免(英語)	平成19年度	1人							
中専免(フランス語)	平成19年度	0人							
中専免(ドイツ語)	平成19年度	0人							
高専免(国語)	平成19年度	1人							
高専免(英語)	平成19年度	2人							
高専免(フランス語)	平成19年度	0人							
高専免(ドイツ語)	平成19年度	0人							

社会学研究科	社会学専攻	12人	中専免(社会)	昭和48年度	5人	0人	0人	0人
			高専免(公民)	昭和48年度			0人	
法学研究科	法学・政治学専攻	45人	中専免(社会)	平成16年度	22人	0人	0人	0人
			高専免(公民)	平成16年度			0人	
経済学研究科	経済学専攻	30人	中専免(社会)	昭和30年度	11人	0人	0人	0人
			高専免(地理歴史)	昭和30年度			0人	
			高専免(公民)	昭和30年度			0人	
商学研究科	商学専攻	30人	高専免(商業)	昭和30年度	23人	0人	0人	1人
理工学研究科	数理科学専攻	10人	中専免(数学)	平成21年度	11人	4人	4人	4人
			高専免(数学)	平成21年度			4人	
	物理学専攻	22人	中専免(理科)	昭和41年度	19人	1人	1人	0人
			高専免(理科)	昭和41年度			1人	
	化学専攻	33人	中専免(理科)	昭和41年度	30人	0人	0人	0人
			高専免(理科)	昭和41年度			0人	
	生命科学専攻	35人	中専免(理科)	平成16年度	34人	0人	0人	0人
			高専免(理科)	平成16年度			0人	
	情報科学専攻	22人	中専免(数学)	平成18年度	49人	0人	0人	0人
			高専免(数学)	平成18年度			0人	
高専免(情報)			平成18年度	0人				
人間システム工学専攻	25人	高専免(情報)	平成25年度	—	—	—	—	
総合政策研究科	総合政策専攻	50人	中専免(社会)	平成13年度	13人	0人	0人	1人
			高専免(公民)	平成13年度			0人	
			高専免(情報)	平成19年度			0人	
言語コミュニケーション文化研究科	言語コミュニケーション文化専攻	30人	中専免(英語)	平成13年度	31人	0人	0人	4人
			高専免(英語)	平成13年度			0人	
人間福祉研究科	人間福祉専攻	8人	高専免(福祉)	平成20年度	5人	0人	0人	0人
教育学研究科	教育学専攻	6人	幼専免	平成21年度	3人	2人	2人	0人
			小専免	平成25年度			—	
			中専免(社会)	平成25年度			—	
			高専免(公民)	平成25年度			—	
入学定員合計		432人	合計		310人	14人	25人	21人
備考	<p>・「学部・学科等の名称等」欄は、平成25年4月1日現在の名称・定員である。</p> <p>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。</p>							

## 教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成25年7月4日（木）

実地視察大学：関西学院大学

実地視察委員：天笠茂委員，和泉研二委員

### 【全般的事項】

- 教職課程の積極的な運営が見られたが，教員養成に関する教育課程について教職課程認定基準等を満たしていない点があるので，制度を理解の上，速やかに是正すること。
- 関西学院大学がこれまで蓄積してきた中等教育教員養成の知見や技術と，旧聖和大学において培われてきた教育学部の知見や技術が，発展的に融合し，小学校教員養成をはじめとした教員養成の質的向上が図られることを期待する。
- 大学全体の経営戦略の中で，教員養成をどのように位置付け，大学として質の高い教員をどのように主体的に育てていくのかについて，再度検討されることを期待する。

### 【個別事項】

#### 1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

- 教員養成に対する理念・構想を明確化し，その理念の具現化のために，教職課程に関する全学的な組織である「教職教育研究センター」の在り方や機能を見直すこと。なお，「教職教育研究センター」と各学部が，これまで以上に緊密に連携することで，「教職教育研究センター」の機能を発展的に充実・強化していくことを期待する。また，上ヶ原キャンパスと聖和キャンパスとの教職課程の一体化の検討について，「教職教育研究センター」を中心に行い，関西学院大学全体の教職課程が充実したものとなるように努めていただきたい。
- 教職課程は，教員免許状という資格を授与するための課程であることに鑑み，授業内容の扱いについて，個々の教員に完全に委ねるのではなく，教職に関する全学組織で定められた教育課程の編成方針のもと，その内容の点検・検討ができるような体制・仕組みの構築が必要である。例えば，教職教育研究センターを中心としたファカルティ・ディベロップメント等を通じ，授業内容及び授業方法の充実に関して検討を行うことや，シラバスの内容や記載方法のチェック機能の改善を図ることなど，教職課程の更なる質の向上のための実質的な取組を期待する。

#### 2. 教育課程（教職に関する科目及び教科に関する科目），履修方法及びシラバスの状況

- 「教科に関する科目」は，教職課程の一部であると同時に，学科等における学位を取得するための専門科目の一部であり，教職を志す学生は，「教科に関する科目」と学位を取得するための専門科目を取得することによって，教科に関する専門性を高めていくことが期待されている。一部の学科等においては，「教科に関する科目」が，「教職等資格関連科目」として学位プログラムの外に位置付けられているが，速やかに是正すること。なお，教職課程の教育課程の編成に当たっては，学位プログラ

ムとしての専門科目と「教科に関する科目」の関連性に配慮しながら、体系的に編成を行うように努めていただきたい。

- 「教科に関する科目」については、自学科等での開設を原則としている一方、教職課程の科目内容の水準の維持・向上等を図る観点から、教育職員免許法施行規則に定める科目区分の半数までは他学科又は共通開設の授業科目を充てることを可能としている。しかし、貴学の学則において、「教科に関する科目」は、「教職等関連科目」として学位プログラムの外に位置付けられており、更にそれらの授業科目は、教職課程を置く学科等における開設授業科目なのか、他学科開設授業科目なのか、共通教育科目なのかが区別されていないため、それらを明確にするとともに、科目区分の半数を超えて他学科又は共通開設の授業科目を充てていないかどうかを確認し、必要があれば教職課程認定基準を満たすように速やかに是正すること。

### 3. 教育実習の取組状況

- 学生の母校における実習が6～7割となっており、その実習先300校のうち3分の1について巡回指導を行っている状況が確認された。教育実習は、大学による教育実習指導体制や評価の客観性の観点から、遠隔地の学校や学生の母校における実習ではなく、可能な限り大学が所在する近隣の学校において実習校を確保することが望ましい。今後、地元教育委員会や学校との連携を進め、近隣の学校における実習先の確保に努めていただきたい。
- 学生が出身地の学校への就職を希望するなどの理由により、やむを得ず母校における実習を行う場合においても、実習校と連携し、大学が教育実習に関わる体制を構築するとともに、学生への適切な指導、公正な評価となるように努めていただきたい。

### 4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 教職教育研究センターにおいて、教育実習生の指導案を過去30年分保管しているなど、学生への指導体制を整備しようとする努力が見受けられた。今後、教職を目指す学生への指導体制がより一層充実されることを期待する。
- 2,000人以上の卒業生が教育現場で活躍しているということであったが、今後、卒業生を活用した教職指導も可能だと思われるので、その点について御検討いただきたい。例えば、教員として就職している卒業生の講演会を開催するなど、学生の意欲を引き出すような積極的な教職指導が考えられる。

### 5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 地元教育委員会の協力を得ながら、学校インターンシップや学校ボランティア等の機会を設けるなど、教職を志す学生に対する学校現場等での体験機会の充実に努めているように見受けられた。教職課程に関心のある学生が、早い段階から学校におけるボランティア活動等を通じて、教職の魅力や教員としての適性等を把握した上で、教員免許状の取得を目指すことが重要である。地元教育委員会・学校との連携・

協力体制を今後一層強化し、教育課程外で行われる学校現場体験等を有機的に関連させた教職指導の実施を期待する。

- 学校インターンシップや学校ボランティア等における積極的な取組が、教育実習先の確保につながるなど、今後、現在の取組が他の取組につながっていく展開を期待する。

## 6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 図書館について、設備・蔵書ともに、全般的に充実しており、環境は良く整備されているように見受けられた。ただし、西宮聖和キャンパスについて、幼稚園の教職課程に関する図書は充実していたが、小学校の教職課程に関する図書は十分に整備されているとは言い難いため、今後、図書環境の整備に努めていただきたい。

## 7. その他特記事項

- 特になし。